

## 加藤正世コレクションについて

セミ博士として著名であった加藤正世博士のコレクションは、主にセミ類やハゴロモ類、ウンカ類、ヨコバイ類が属する半翅目昆虫を中心に構成され、その他に鱗翅目（ガ・チョウ類）、鞘翅目（コガネムシ類）膜翅目（アリ・ハチ類）、双翅目（ハエ類）、蜻蛉目（トンボ類）、直翅目（バッタ類）など、様々な昆虫類が幅広く含まれる。

加藤博士は分類学者として昭和の昆虫分類学の黄金期を支えた人物の一人としてもよく知られ、多くの新名（属、種、変種など）を命名している。本コレクション内には約 390 頭のホロタイプ標本が含まれており、セミ類などの半翅目の他、ハゴロモヤドリガ、ルーミスジミ台湾亜種などの鱗翅目のタイプ標本もある。



当館には 1950 年代以降の東京都の昆虫標本が多く含まれる須田孫七コレクションが先に寄贈されているが、加藤博士は東京都で最初の昆虫リスト（データベース）を 1900 年代前半に作成しているため、須田コレクションの前史をカバーする東京都産の昆虫標本が多数存在する。

また、日本昆虫界の祖とも言われる素木得一（しらきとくいち）の丁稚としての修業時代（1923-1928 年）に台湾にて採集した昆虫標本もかなり含まれるなど、そのコレクションの内容は国内産に留まらない。書籍の量も膨大で、加藤博士自身も 800 以上の論文・報文と 60 を超える著書を執筆している。一方、加藤博士は航空機操縦士でもあったことから、戦前・戦後の航空関連の貴重な物品も数多く残されている。

生前は石神井公園の隣に建てられた加藤昆虫研究所＝蟬類博物館に保管されていた。加藤博士の死後、本館に寄贈されるまで、これらの貴重な標本・資料はご遺族により 1974 年に長野県茅野市蓼科へ移され、「加藤正世記念昆虫館」という個人の所蔵館内で長年大切に保管されていた。そのため、大正～昭和前期の昆虫分類学の黄金期に築かれた中で、国内でおよそ最後に残された大型個人コレクションとなっていた。

2010 年 8 月 12 日、石神井公園ふるさと文化館の小金井靖館長の仲介で、加藤博士の孫・鈴木真理子氏に本館へご来館頂き、その際にコレクションの受け入れを申し出たところ、本館への寄贈の話が順調に進み、2010 年 10 月 18 日に加藤博士の五女・鈴木蘭子氏（真理子氏の御母殿で当時の管理者）から正式にご寄贈頂いた。

## 加藤正世博士の略歴

加藤 正世（かとう まさよ、1898～1967 年）

半翅目昆虫（セミ、ツノゼミ、ウンカ、ハゴロモなど）を中心に形態学的、分類学的研究を行った昆虫学者。理学博士（北海道大学）。日本生物教育会理事、日本生物教育学会理事、富士見高校教諭なども務める。

1898年栃木県塩谷郡北高根沢村（現・高根沢町）生まれ。元庄屋の旧家出身で、3男3女の3男。父・幹実は農学者（津田仙の弟子）で俳人・書家。

1916年に東京の政玉社中学校を卒業後、1922年に飛行操縦士の免許を取得、翌年に帝国飛行協会委託となる。同年、昆虫研究のために念願であった台湾へ渡り、嘉義農事試験場支所や総督府中央研究所で農業害虫の研究に従事。昆虫学者として著名な素木得一（しらきとくいち）博士の下で昆虫学の基礎を積む。1928年に帰国し、「趣味の昆虫採集」を発刊して、これが好評を博し、重版を重ねて1945年には26版に及ぶ名著となった。

1932年に「昆虫趣味の会」を設立し、翌年には「昆虫界」を創刊、これが1962年まで続く機関誌として、プロ、アマ問わず、多くの昆虫学者や昆虫愛好家の登竜門の場を提供した。

1935年には東京・石神井公園の隣接地に「加藤昆虫研究所」を設立し、1935年には同敷地内に「蟬類博物館」を築造して一般公開し、後年は昆虫学の普及に努めた。のちにこの敷地（1,000坪）は石神井公園へ寄附している。

1956年には大著「蟬の生物学」を発行し、これにより北海道大学から理学博士の学位を授与された。

1967年逝去、富士霊園に納骨。享年69歳。

## 主な著書

- ・ 趣味の昆虫採集. 三省堂, 1930.
- ・ 分類原色日本昆虫図鑑 1-12. 厚生閣, 1932-1934.
- ・ 蟬の研究. 三省堂, 1932.
- ・ 昆虫の生活研究. 研究社, 1948.
- ・ 動植物の採集と標本の作り方. 岩崎書店, 1952.
- ・ 昆虫採集. 三十書房, 1953.
- ・ 蟬の生物学. 岩崎書店, 1956.
- ・ 昆虫の飼育と観察. 三十書房, 1957.
- ・ 虫の世界. 社会思想研究会出版, 1961.

## 加藤コレクション・リスト(概算)

### 1) 標本箱・ビン類

- ・ 標本入りの箱数：大ドイツ箱 26箱、中ドイツ箱 533箱、小ドイツ箱 15箱、その他 50箱
- ・ 空き箱数：中ドイツ箱 285箱
- ・ ビン・バイヤル数：約 100個

2) 標本総数

約6万頭（うちホロタイプ標本390頭）

3) 直筆描図等

総数 100点

4) 書籍・文献等

総数 2,500点

5) 写真等

総数 1,000余点

